



これまで勤務していた常勤医が退職し、常勤医が確保できないまま診療を継続しなければならなくなつたのでした。常勤医のいない診療所は、まさに翼を毛がれた鳥のごとくでした。診療継続のために行った対応策は、近隣の病院の協力を得て、非常勤医によって何とか半日だけ外来を運営してゆくことでした。

常勤医のいない一年間、地域

医師確保が難しいといわれる現在、地域では医療崩壊という最悪の事態が起きています。現在私が勤務する福井県美浜町立東部診療所も、二〇〇六年度には深刻な状況に陥りました。

いない常勤医

住民はどのような気持ちで過ごしたのでしょうか。私がこの町に赴任し数カ月がたちました

が、常勤医のいない診療所に通った体験談を話していく患者さんが大勢います。その内容は、

これから自分に向けられた要望であるとともに、今の医師不足の日本を動かす大切な声でも

ニーズは気軽さ

ある女性の体験談には、「この診療所、去年は、お医者さんの日替わりランチで困つたわあ」という一言がありました。これは、受診するたびに違う医師に診察を受けることへの不安からにじみ出た言葉です。大きな病院では専門外来などの設定のため、曜日ごとに担当医が異なることはよくあることです。しかし、町の地域診療所ではそれでは不安だということです。患者さんのニーズが、診療所と病院とは違つために生まれる現象でしょう。高度医療の専門的加療を受ける安心感よりも、まず、いつでも、また、どんな内容でも、気軽に相談できるといふ安心感が期待されているの

でしょう。

日本全体の医師不足への対策 (次回予定は熊本県)

目指すは「おふくろの味」

に応用するのであれば、重視すべきは住民の不安を解消するにはどうすれば良いか、この視点に立つた対応策の実施だと思つています。

面白く感じて

私はこれまで、約五年間にわたり、二つの地域診療所に勤務した経験があります。そして、この間、地域医療を面白く感じてきました。地域ごとにニーズが異なり、そのニーズに応えられるよう、時には新しいことにも挑戦し取り入れて形づくる

必要がある。院内だけでなく地域に勤務する院外の多職種の人々とも協力し、他の地区に負けない特色ある医療地区に育て上げてゆく喜びがありました。

むらよせ 村寄 ぶん 21期生、1998年卒



東部診療所正面。道を挟んで日本海を一望できる

美浜町立東部診療所

【私の勤務地】美浜町は福井県の中央に位置する人口1万1000人の町。水晶浜(海水浴場)や原子力発電所は全国的に有名。住民は観光・農業・漁業に従事する。東部診療所は総合診療を提供する傍ら、公的医療機関として保健・福祉分野にも参加する。